

平成30年度 事業報告

1. 概 要

当センターを取り巻く環境は、雇用情勢が大きく改善され、企業等での人手不足が顕在化しておりますが、これまで、会員の皆様や市当局、関係団体等のご理解、ご支援をいただきながら、攻めの姿勢でシルバー事業の運営に取り組んでまいりました。

平成30年度は、引き続き国の補助事業である高齢者活用・現役世代雇用サポート事業等を活用する中、各種事業に積極的に取り組んだ結果、目標に掲げた会員数及び事業収入額を大幅に超えるなど順調な事業運営ができました。

特に、会員拡大においては、年間入会者数が初めて1,000人を超え、入会者数で女性会員が男性会員を上回るなど着実な成果を残すことができました。

平成30年度の実績は、年度末の会員数が、過去最高の3,691人、前年度比較450人の増となりました。

契約金額については、受託業務が、契約金額961,943,799円 前年度比較59,474,121円増 6.6%増、派遣業務が契約金額ベースで490,505,506円 前年度比較127,447,590円増 35.1%増となり、合計で1,452,449,305円 前年度比較186,921,711円増 14.8%増となりました。

契約件数では、受託業務と派遣業務合計で、28,287件 前年度比較1,862件増となり、受託業務の配分金と派遣業務の賃金等の合計で1,201,377,005円、前年度比較148,714,348円の増 14.1%増となっております。

派遣業務の就業実人員を加えた就業率については、85.2%となりました。

主な実施事業は次のとおりです。

(1) 就業開拓及び就業率の向上

- ① 就業推進グループによる事業所や一般家庭への就業開拓を、派遣業務に限らず請負・委任業務にまで拡大し、計画的、重点的に行いました。

なお、就業開拓にあたっては、グループ等の契約額に目標を定め、毎月開催する就業活動報告会で目標額の達成状況を確認するなど、徹底した進行管理を行いました。

・派遣就業契約件数 ㉨ 2,591件 → ㉩ 3,349件

・派遣就業延人員 ㉨ 83,285人 → ㉩ 108,565人

- ② 事務局の組織再編により就業推進グループを業務推進課に統合し、業務係との連携強化を図ることで、受託・派遣に係るマッチング等を効率化し、就業拡大に努めました。

- ③ 繁忙期作業の平準化及びリピーター対策として、伊敷地域に加え新たに桜島支部を除く4支部において剪定、刈払等の既発注者に対し、発注のお礼を兼ね受注依頼文書を送付し、先行予約による受注拡大を図りました。

㉩ 送付件数 1,245件 予約依頼件数 642件

- ④ センターへの仕事の発注が期待される企業、法人等に対し、発注依頼文書を送付し、連絡があった企業等を訪問するなど重点的な就業開拓を行いました。

5月 ・不動産業（230件） ・幼稚園、保育園（185件）

6月 ・県及び県関係の外郭団体（165件）

7月 ・私立学校、大手学習塾、ハウスメーカー、カーディーラー（228件）

8月 ・小規模事業所、商店対象（277件）

・葬祭業者（31件） ・高校、大学、短大、専門学校（66件）

10月 ・保育園、認定こども園（179件）

- ⑤ 国の補助事業を活用し、民生委員・児童委員等との連携による地域に根差した家事支援サービスを提供するため、「ふれ愛 たすけ愛 地域困り事応援事業」を実施し、サービスの担い手となる会員を養成するための研修会等を実施しました。

- ⑥ 10月に未就業者及び就業実績の少ない会員へ、文書で就業意向等の調査を行い、調査結果を就業案内に活用しました。

また、未就業会員等への就業案内を積極的に行うとともに、企業等からの求人情報や受託事業での就業情報を送付し、就業相談会を実施しました。

・就業意向調査 808名へ調査文書送付 回答者数 246名

・就業説明会

区 分	就業情報 発送者数	就業説明会 開催日	出席者数	就 業 先 決定者数
第 1 回	3,338人	6月15日	43人	19人
第 2 回	703人	8月10日	23人	14人
第 3 回	808人	11月13日	23人	13人
第 4 回	338人	2月13日	9人	8人

※第1回は就業説明会の案内文のみ発送

- ⑦ 国の補助事業が終了した「親孝行代行サービス」については、センターの独自事業として引き続き行うこととし、市外に在住し過去に当センターを利用された方へ、案内チラシ等を送付し空き家管理、墓掃除等のサービス拡大を図りました。

また、鹿児島市へのふるさと納税での寄付者に対し、返礼品として空き家管理、墓掃除のサービスを提供しました。

・ふるさと納税返礼品 ③〇 3件 16,200円

・平成30年度市外からの受注実績

空き家管理（剪定、除草等含む） 643件 13,543,503円

墓守・墓掃除 120件 1,115,690円

- ⑧ 新規の就業開拓を行った会員へ就業開拓報奨金を交付しました。

・報奨金交付実績 ⑳ 40件 → ㉑ 42件 → ㉒ 66件

- ⑨ ジョブコーディネーターを常時配置し、未就業者等への就業案内や入会希望者へのきめ細かい説明を行うなど、未就業者対策の強化に努めました。

- ⑩ 平成29年2月から開始した、軽貨物自動車を使用した不用品や粗大ごみ等の運搬、廃棄処分等については、パンフレット等による広報に努め、積極的に受注の確保に努めました。

・受注件数及び受託金額 ㉓ 104件 930,052円

- ⑪ ホームページを週1回更新し、常に新たな就業情報の提供に努めたほか、入会説明会終了時、入会手続きをされた方に就業案内を行うなど就業率の向上に努めました。

- ⑫ 鹿児島市の指定管理者として、「東千石・山之口・中町自転車等駐車場」、「すこやかランド石坂の里」及び「さくらじま白浜温泉センター」については、それぞれの施設の適正管理に努めました。

- ⑬ 就業開拓にあたっては、既発注者への掘り起こしや会員の希望の多い職種等の就業開拓を強化するとともに、各地域で開催されたイベント等でのチラシ配布を行うなど、センター事業のPRに努めました。

(2) 会員の拡大及び資質の向上

- ① 「ハローワークかごしま」へ毎週水曜日に就業推進グループ及び女性職員が訪問し、来訪者への会員勧誘を行うなど積極的に会員拡大を図りました。

- ② 会員拡大、就業拡大を図るため、シルバー広報用チラシを、より分かり易く、よりアピールできるよう意匠や記事内容等を工夫するなど見直しを行い、新たなチラシとして、6月、11月、3月にポスティング及び地域情報誌に併せて市内全域に配布しました。

- ③ 就業支援セミナーを4回開催し、セミナー終了後、入会手続きや就労相談等を行うなど入会促進を図りました。

・就業支援セミナーの開催状況（開催場所：勤労者交流センター）

	開催日	講演内容	講師	参加者	入会者
1	30.6.30	鹿児島弁で にこさっ！	児童文学作家 植村紀子氏	83人	50人
2	30.8.25	人間大好き	KTSタレント タマリ氏	75人	50人
3	30.10.6	健やかに老い、穏やかに逝く	南風病院院長 福永秀敏氏	65人	34人
4	31.3.9	キャスターという仕事	MBCアナウンサー 藤原一彦氏	96人	62人

合 計 319人 196人

- ④ 県シ連が主催した高齢者活躍人材育成事業での市民を対象にした就業のための各種講座の受講者に、当センターの概要を説明し積極的に入会促進を図りました。

講 習 内 容	開 催 日	修 了 者	入 会 者	摘 要
子育て支援講習（3回）	6／4～7／12	76人	43人	1回4日間
介護補助員養成講習	7／18～20	24人	15人	
店舗スタッフ講習	9／26～28	24人	12人	
調理補助員養成講習	11／6～8	28人	13人	
クリーンサービス講習	12／5～7	15人	9人	
合 計		167人	92人	

- ⑤ 初めての試みとして7月から8月を「入会促進キャンペーン月間」とし、積極的な広報活動を行ったほか、この期間に入会した方へ会員手作り品をプレゼントするなど入会促進を図りました。

また、3月に入会する会員の平成30年度の会費を免除することで、4月入会予定者等を3月に引き寄せることにより、入会促進及び事務の平準化を図りました。

・7～8月入会者 ②⑨ 90人 → ③⑩ 180人

・3月入会者 ②⑨ 14人 → ③⑩ 95人

- ⑥ 明治維新150年記念として昭和、平成の時代を振り返る映像、音楽を織り交ぜ、それぞれの時代のファッションで会員モデルによるファッションショーを「シニアビューティフェア」として、盛大に開催することで、シルバー事業の広報啓発及び女性会員の拡大を図りました。

なお、NHK、民放各局など多くのマスコミに取り上げられ放映、記事とされたほか、県内外のシルバー関係者も視察に訪れました。

・開催日時 平成30年11月14日 12時～15時

・開催場所 勤労者交流センター

・内 容 オープニング生演奏、ファッションショー

～映像と音楽で明治から昭和、平成を振り返る～

・参 加 者 267人 視察者65人、スタッフ 84人 合計 416人
視察者内訳（全シ協、山口県シ連、宮崎県シ連、県内外12センターなど）

- ⑦ 初の試みとして、女性限定の入会説明会を開催することで、女性会員向けの就業案内や女性会員の活動、アンテナショップ「おじゃったもんせ」等の紹介を行い、女性会員の加入促進に努めました。

・開催日時 平成30年11月27日 10時～12時

・開催場所 勤労者交流センター

・内 容 講演「対人コミュニケーションのこつ」 乙守 美千代氏
入会説明会、就業案内、女性会員の活動紹介（同好会等）
「おじゃったもんせ」の商品展示

・参 加 者 58人 ・入 会 者 25人

- ⑧ 会員3,500人突破を記念して、従来開催していた美をテーマにした「シニアビューティフェア」からファッションショーを除き体験ブースを中心とした内容で、「シニアビューティーアップ講座」として開催し、女性会員の拡大を図りました。

・開催日時 平成31年1月30日 12時30分～15時30分
・開催場所 勤労者交流センター
・内容 オープニング演奏、ビューティーアップ講座、体験ブース
・参加者数 139人
・体験ブース リフトアップメイク、ハンドマッサージ、リップタッチ
眉カット、ミセスファッション展示・試着など
(視察者 福岡市、鳥栖市、熊本市シルバー人材センター)

- ⑨ 動画等の映像で当センターの活動状況をより分かり易く説明するための入会説明会用DVDのほか、よりセンターの魅力、アピール度を高めた広報啓発用DVD等を制作しました。

- ⑩ 女性会員の拡大を目的とする「ひまわりの会」については、地域ごとに交流会を開催し、さらなる会員相互の親睦を深めるとともに地域リーダーの育成に努めました。

・地域交流会の開催 7/25～3/26 参加者 13地域 250名

- ⑪ 支部の会員拡大を図るため支部専用のチラシを作成し、各世帯に配布したほか、各地域で開催されたイベント等でチラシの配布や手作り品の販売を行うなど支部会員の拡大に努めました。

- ⑫ 生活、就労相談がワンストップで可能となる窓口として市が設置した「生活・就労支援センターかごしま」において、当センターの常設窓口での会員による入会相談等を行いました。

・相談受付件数 ⑩ 432件

- ⑬ 就業支援セミナーや入会説明会等において、入会に至らなかった方をシニアパートナーとして登録していただき、情報発信等を通して入会促進を図るとともに、就業を希望しない会員でも互助会や地域活動に参加できるプラチナ会員制度の周知に努めました。

・シニアパートナー登録者数 56人 その内入会者数 14人

・プラチナ会員登録者数 13人

- ⑭ 県シ連が協賛したイベント等において、当センターのブースを設置し、参加者等へ事業案内及び入会等に係る説明を行ったほか、引き続き会員による入会促進を図るため正会員入会報奨金を交付しました。

・交付実績 ⑲ 34件 → ⑩ 32件

- ⑮ 会員の技能向上、接遇向上を図るため各種研修会を実施するとともに、シルバー事業への理解を深めていただくため市民を対象とした講習会を実施しました。

(3) 適正就業の推進

- ① 平成30年度も引き続き「ゆずりあう 心・笑顔の適正就業」をスローガンに、法令遵守はもとより「適正就業に関する基準運用方針」に基づき適正就業の推進に努めました。

- ② 就業期間が5年を超えている会員が多い職群においては、適正就業を図るため就業案内会を開催し、新たな会員の就業を促進したほか、駐輪・駐車班等においては、会員の交代が進むよう交代のための基準を設けるなど適正就業に向けた改善を行いました。

- ・駐輪班 就業案内会の開催 7月、2月
- ・運搬班 就業体験会の実施 6月
- ・公園、墓地清掃班 就業募集の実施 5月

- ③ 職群班である駐輪・駐車班、公園清掃班、墓地清掃班、運搬班等を通じ適正就業の意識が会員へ広く浸透するよう周知を行うとともに、就業会員の募集にあたっては、天保山通信やホームページ、庁舎内の掲示板等を活用し多くの会員への周知を図りました。

(4) 事業推進体制の強化

- ① 専門部会・委員会を効率化するため、専門部会と専門委員会を統合再編し、女性会員にかかる就業、活動をより推進するため、新たに女性活性化委員会を新設しました。

- ・「総務部会・同委員会」と「広報部会・同委員会」を統合し、総務広報委員会へ
- ・女性活性化委員会を新設

- ② 業務量の増加に伴う事務体制の強化を行うため、新たに係制度を導入するなど事務局を再編し職員を増員しました。

- ・3課体制 → 2課4係1グループ
- ・生活支援係の新設
- ・業務係、生活支援係、就業推進グループの職員3名増など

- ③ 「中・長期計画」が平成30年度で終了することから、新たな計画策定のための策定委員会を設置し、平成31年度から5年間の計画としてシルバー事業推進計画を策定しました。

～「まちのシルバー人材センター」を目指して～

- ④ 会員数の増加に伴い、地域班活動の充実強化を図るため、地域班長、職群班長等の委託料を引き上げました。

- ・委託料（基本額） 6,000円 → 10,000円／年

- ⑤ 会費については、会員の利便性向上及び事務の効率化を図るため、平成30年度から原則として配分金から控除することとしました。

- ⑥ 就業開拓や事務局での電話応対、電算入力業務など、事務量の増加等に対応するため、積極的な会員活用を図りました。

- ⑦ 最低賃金の見直しに伴い平成30年4月から配分金単価の改定及び、派遣業務についての手数料率の改定を行いました。

- ・派遣料率 15%（県シ連5%、市10%）→ 18%（県シ連6%、市12%）

- ⑧ センターの事業運営の概況等について、地域班会等で会員へ情報提供するとともに、地域ブロック内の合同班会やレクリエーション等を通じて会員の親睦交流を促進し、連帯感の高揚に努めました。

- ⑨ 全シ事業協会、九シ連絡協議会、県シ連合会等の総会、研修会等に役員、職員が参加するとともに、横浜市、相模原市などシルバー事業の先進地調査を行いました。

(5) 安全就業の推進

- ① 毎月、1日を「安全就業宣言の日」と定め、事務局より安全に係る注意事項及び発生事故等の情報を各職群に送付し、月の初日にミーティング等で就業者全員の安全就業意識の啓発を行うことで、事故ゼロを目指すこととしました。
- ② 安全就業推進委員会を開催し、発生事故の原因解明や再発防止策の検討を行ったほか、賠償事故については、「会員の事故防止に資するための措置要領」に基づき、文書注意等の処置を決定しました。
- ③ 安全就業の推進を図るため、安全就業推進委員会の委員及び職員による安全パトロールを実施し、機械、器具等の使用上の注意や現場での留意事項等の指導等を行うなど事故の未然防止に努めました。

・安全パトロール実施時期等 7月～2月 10回

- ④ 刈払作業における飛び石事故防止のため、両刃回転式刈払機「カルマー機」の使用基準に基づいた使用の徹底を図り、飛び石事故の減少に努めました。
- ⑤ 派遣事業に伴う事故増加に対処するため、緊急事態宣言を発し注意を喚起したほか、事故情報を中心とした派遣ニュースを発行し配布しました。
また、派遣会員及び支部会員等を対象に、外部講師による安全講習会を開催し安全意識の徹底を図りました。

・参加者 10月22日 246名、10月30日 251名 計 497名

- ⑥ 主に安全就業等に活用していただくため、ポケット版サイズの「会員ハンドブック」を作成し、12月5日発送の「天保山通信」に同封して全会員に配布しました。
- ⑦ 事故の未然防止を図り職群班会や安全講習会等で活用するため、剪定、刈払、公園等の職群会員から提出いただいたヒヤリ・ハットした事例を基に、「ヒヤリ・ハット事例集」を作成しました。
- ⑧ 派遣会員による事故が増加傾向にあることから、安全就業推進委員会で事故防止に向けた協議を行うとともに、派遣会員の運転業務に係る適正検査を毎年、義務化し実施することとしました。
- ⑨ 会員の事故防止策として、職群班及び各支部、合同班会等において、事故の発生状況等を報告するとともに、安全就業についての講習や研修会を行うなど安全就業等への周知、徹底を図りました。
- ⑩ 安全意識の高揚につなげるため、引き続き安全就業に関する標語を募集し60点の応募があり、最優秀賞等の作品を選定しました。なお、標語については、事務所内に掲げるなど会員、職員の安全就業に対する意識啓発に活用しました。
- ⑪ 平成30年度の発生事故は、傷害、賠償事故合わせて受託事業が29件、派遣事業が22件となり、前年度に比べ11件事故が増加しました。

主な理由は、派遣事業の拡大に伴い派遣での事故が11件から22件となり11件増加したことによるもので、派遣事故の内18件が傷害事故となっており、今後派遣による事故防止の強化が課題となっております。

また、カルマー機使用の徹底により、飛び石による物損事故は6件から4件となり、2件減少しました。

・事故の発生状況（年度別推移）

年 度 別		27年度	28年度	29年度	30年度	対前年増減
受託	傷 害	16件	12件	17件	13件	△ 4件
	賠 償	12件	21件	12件	16件	4 件
	計	28件	33件	29件	29件	0件
派遣	傷 害	1件	2件	8件	18件	10件
	賠 償	0件	0件	3件	4件	1件
	計	1件	2件	11件	22件	11件
計	傷 害	17件	14件	25件	31件	6件
	賠 償	12件	21件	15件	20件	5件
	合 計	29件	35件	40件	51件	11件

・平成30年度 月別事故発生状況

月 別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受託	傷 害	0	2	0	2	2	0	1	1	3	0	2	0	13
	賠 償	1	1	2	4	2	1	0	1	1	1	0	2	16
	計	1	3	2	6	4	1	1	2	4	1	2	2	29
派遣	傷 害	2	0	1	2	2	2	3	0	1	2	1	2	18
	賠 償	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
	計	3	0	2	2	3	3	3	0	1	2	1	2	22
計	傷 害	2	2	1	4	4	2	4	1	4	2	3	2	31
	賠 償	2	1	3	4	3	2	0	1	1	1	0	2	20
	合 計	4	3	4	8	7	4	4	2	5	3	3	4	51

・事故の内訳

【傷害事故の傷病内訳】

傷病程度	骨 折	裂 傷	熱中症	打 撲	その他	計
受 託	7件	0件	0件	1件	5件	13件
派 遣	4件	4件	1件	3件	6件	18件
合 計	11件	4件	1件	4件	11件	31件

【賠償事故の原因別内訳】

事故原因	刈払(飛石)	刈払(接触)	剪定(接触)	車両(物損)	その他	計
受 託	4件	2件	2件	3件	5件	16件
派 遣	0件	0件	0件	3件	1件	4件
合 計	4件	2件	2件	6件	6件	20件

(6) 独自事業の推進

- ① 「ワンコインまごころサービス」については、引き続き市の支援を受け実施しました。

延利用回数（年間）

・100円 ㉨ 7,029回 → ㉩ 8,698回

・500円 ㉨ 302回 → ㉩ 396回

- ② アンテナショップ「おじゃったもんせ」で、会員手作りの野菜や手芸品及び新たに賛助会員の乾物品を販売に加えたほか、総会や入会キャンペーンでのプレゼント品等をアンテナショップから購入することなどで、売上の向上を図りました。

・総売上額 ㉨ 3,927,627円 → ㉩ 4,737,853円

- ③ 会員の健康の保持、福利厚生の上昇を図るため、新たに会員が家庭常備薬等を市場価格より廉価で購入できるよう、特別医薬品の斡旋販売を行いました。

・斡旋販売額 872,140円

- ④ 年末物品販売については、会員がより購入し易いよう購入申込期限を延長し、会員手作りの桜島小みかんや乾燥しいたけ、米等多数の商品に加え、賛助会員からも商品提供を受け実施しました。

・販売商品数 ㉨ 30品目 → ㉩ 55品目

・販売額 ㉨ 820,560円 → ㉩ 804,590円

- ⑤ 桜島フェリーターミナル内にある「ほほえみサロン」については、引き続き情報発信の場としての活用を図るとともに、市民向けの講座を年6回開催から、毎月開催に拡充しました。

また、会員の困り事について、相談しやすい環境とするため、身近な会員が相談に応じることとし、新たに「ほほえみサロン」に「会員困り事相談コーナー」を設置しました。なお、毎週、火曜日を会員からの相談日としました。

・講座開催 ㉨ 6回開催 52名参加 → ㉩ 12回開催 93名参加

・困り事相談コーナー 相談者数 119名

(7) 普及啓発活動の推進

- ① センターでの入会説明会、イベント等の案内について市広報誌「市民のひろば」に毎月掲載したほか、地域情報誌等を活用し、記事、折り込みチラシ、ポスティング等により、積極的な広報に努めました。

なお、記事、チラシ等については、より分かり易く、よりアピールするためキャッチコピー、意匠及び記事内容等を工夫するなど見直しを行いました。

《主な広報実績》

広告媒体	広 告 日	部数等	記 事 内 容
リビング新聞	4月7日、21日	270,000	入会説明会等（記事掲載）
南日本新聞	4月13日、25日	352,000	4～6月入会説明会（記事掲載）
リビング新聞	5月19日	8,500	支部限定（折り込みチラシ）
〃	6月2日、9日	270,000	就業支援セミナー、入会募集（記事）
くらしiネット	6月30日	218,000	会員・就業拡大（ポスティング）
リビング新聞	7月14日	270,000	就業支援セミナー、入会募集（記事）
〃	8月4日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）
〃	9月15日	270,000	就業支援セミナー、入会募集（記事）
〃	9月15日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）
〃	9月22日	270,000	シニアビューティフェア（広告）
〃	9月29日	50,000	〃（ポスティング）
地域経済情報誌アイム	10月1日	6,200	就業拡大（折り込みチラシ）
リビング新聞	10月20日	270,000	女性限定入会セミナー（記事掲載）
〃	11月3日	270,000	〃（記事掲載）
〃	11月3日	50,000	〃（ポスティング）
〃	11月10日	240,000	就業拡大（家事支援）（ポスティング）
〃	11月17日	240,000	会員・就業拡大（折り込みチラシ）
〃	1月12日	270,000	ビューティーアップ講座（記事掲載）
〃	1月12日	50,000	〃（ポスティング）
〃	2月16日	270,000	就業支援セミナー、入会募集（記事）
〃	2月16日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）
〃	3月2日	240,000	会員・就業拡大（折り込みチラシ）

② ホームページを毎週1回更新することとし、求人情報やイベント等に係る直近の情報を掲載したほか、新たに支部の活動状況等について紹介するため支部専用のページを設けるなどホームページによる広報宣伝に努めました。

③ 女性会員を中心に、会員の多才な芸能、技能を活用し施設等へボランティアで訪問活動をするための「ひまわり劇団」を結成しました。

なお、訪問した福祉施設等の多くの市民の方に喜んでいただいたほか、当センターの活動を広くアピールすることができました。

・活動状況 7月～3月 訪問回数 18回 訪問延べ会員数 123名

④ 当センターの事業等についての情報発信として、会報「かごしまシルバーだより」第71号（4月）、第72号（10月）を発行し、全会員へ送付しました。

なお、「天保山通信」については、地域班長等へタイムリーな情報を提供するため臨時号を含め5月、6月、8月、12月、2月の年5回発行するとともに5月、12月発行分については全会員へ送付しました。

⑤ 派遣事業に従事する会員を対象に、新たに事故防止の呼びかけや地域班会活動等の案内などを内容とした「派遣ニュース」を8月、1月に発行するとともに、女性会員専用の情報発信として、会員手作りで女性会員の声や女性専用のイベントなどを紹介した「ひまわり新聞」を8月に発行しました。

⑥ センター活動の宣伝、啓発等を図るため「おはら祭り」に踊り連として参加したほか10月の普及啓発促進月間に、山形屋3階のブリッジギャラリーで、会員38人、同好会2団体の134点の作品、センター事業の概要等を展示、紹介しました。

⑦ 事業案内や会員募集のため、センターのリーフレットを市役所及び各支所、高齢者福祉センター、各地域公民館等32施設に設置しました。

⑧ 各地域班、職群班において、地域でのぼり旗を掲揚し清掃活動等のボランティア活動を行ったほか、グループ就業時等においてのぼり旗を掲揚するなど市民への啓発に努めました。

⑨ センター事業の広報啓発を図るため、マスコミ等に対しあらゆる機会を捉えて情報発信しました。

※テレビ、新聞等で取材を受けた主なもの

・派遣実績最高4割増	《南日本新聞》	5月
・公園清掃、ひまわり劇団	《KTSテレビ》	9月
・活躍の場広がるシルバー 銀の卵確保に力	《南日本新聞》	8月
・躍動シルバー劇団 福祉施設慰問	《南日本新聞》	9月
・南日本新聞社社長と藤山県シ連会長の会談	《南日本新聞》	10月
・シニアビューティフェア取材		11月

《NHK、民放テレビ4社、ケーブルテレビ、朝日新聞、南日本新聞》

- | | | |
|-------------------|---------|-----|
| ・ シニアビューティフェア | 《南日本新聞》 | 11月 |
| ・ シルバー人材センターの挑戦 | 《N H K》 | 12月 |
| ・ 契約額、就業人員伸び 全国1位 | 《南日本新聞》 | 1月 |
| ・ 鹿児島発 シニア女性キラリ | 《朝日新聞》 | 2月 |
| ・ その他 | | |

新聞、テレビ等の取材による当センターの紹介

- ⑩ 会員数の増加や派遣事業が拡大している当センターの取り組み状況を調査するため、全国のシルバー人材センターが来訪され、意見交換を行いました。

また、全国のシルバー事業の関係団体から、当センターの事業運営等についての講演依頼があり、理事長が特徴的な取り組み内容等について講演を行いました。

○他都市からの調査

- | | |
|--------|-------------------------|
| 10月30日 | 八女広域（福岡県）シルバー人材センター事務局長 |
| 12日 | 熊本市シルバー人材センター来訪（意見交換会） |
| 11月9日 | 豊川市（愛知県）シルバー人材センター来訪 |
| 15日 | 宮崎市シルバー人材センター来訪 |
| 21日 | 新居浜市（愛媛県）シルバー人材センター来訪 |
| 1月24日 | 合志市（熊本県）シルバー人材センター来訪 |
| 31日 | 福岡市シルバー人材センター来訪 |
| 〃 | 鳥栖市（佐賀県）シルバー人材センター来訪 |
| 3月13日 | 郡山市（福島県）シルバー人材センター来訪 |

○他都市での講演（理事長）

- | | |
|--------|------------------------|
| 9月7日 | 埼玉県シルバー連合会理事長研修会 |
| 10月15日 | 山口県シルバー連合会役職員研修会 |
| 2月27日 | シルバー人材センター関東ブロック役職員研修会 |